

## ペット避難の検討・取組状況について

区では全避難所でペットの受け入れと飼育管理を可能としているものの、避難スペースの確保、飼い主や避難所運営組織への周知、ペット用資機材の不足などの課題がある。飼い主による備蓄の推進とともに、避難所における受入環境の改善に向けた現状と課題及び取組状況について報告する。

### 1 現状

#### (1) 地域防災計画上の位置づけ

中野区地域防災計画により、ペットの避難受け入れと専用スペースでの飼育管理を全避難所で実施している。受入対象は犬・猫・鳥等の小動物で、原則、屋外で飼育・管理を行うこととしている。

#### (2) 避難所運営組織への周知

各避難所で統一かつ円滑なペット避難を図るため、避難所運営マニュアルにペット避難の対応要領を明記し、避難所運営組織と共有化を行っている。

#### (3) 訓練・周知の取組

総合防災訓練において、ペット避難訓練を実施している。また、保健所窓口や区ホームページなどを通じ、備蓄・しつけ・健康管理など災害時に必要な知識を周知している。

### 2 課題

#### (1) 在宅避難を前提とした備蓄の推進

自宅等が安全な場合は、在宅避難が最も推奨する避難行動であるため、日頃からペット用の食料・水・トイレ用品等の備蓄物資の準備を飼い主に促す必要がある。

#### (2) 避難所におけるペット受け入れ環境の更なる改善

避難所ごとに適切な避難スペースや動線の設定、運営組織と飼い主の役割分担の明確化を行うとともに、避難所での共通ルールの周知を徹底する必要がある。

#### (3) ペット避難用物資の整備

ペット避難に必要なケージや飼料などの物資は飼い主が持参することが前提であるが、大規模災害等では持ち出しが困難となるケースがあるため、一定の物資を避難所に備蓄する必要がある。

#### (4) 避難所以外の避難先の検討

避難所環境に順応できないペットや、飼い主が自らペットを管理できないケースも想定されるため、避難所以外での受け入れ先を検討する必要がある。

### 3 主な取組状況

#### (1) 飼い主に対する周知啓発の推進

##### ① 在宅避難の理解促進・ガイドラインの作成

飼い主には、在宅避難に備えた平時からの飼料・水・トイレ用品等の備蓄やしつけ・健康管理など、避難所における飼育に関する必要な知識を周知する。また、災害時の行動を整理した「ペット避難ガイドライン」を作成・公表し、区民の理解促進を図る。

##### ② 継続的なペット避難訓練・効果的な周知活動

総合防災訓練等において、東京都獣医師会中野支部との連携のもと、実践的なペット避難訓練を継続して実施し、飼い主・区・地域防災会・関係機関との連携強化を図る。また、地域イベントでの周知やペットコミュニティの活用など、関係団体と連携した周知活動を検討する。

#### (2) 避難所におけるペット受け入れ環境の更なる改善

##### ① 運営組織と飼い主の役割の明確化

避難所では、飼い主が協力しグループ単位でペットの管理を行うことを基本とする。また、避難所での受入れが可能なペットをガイドラインに記載するとともに、各避難所で統一的な対応が行えるよう、避難所運営マニュアルの更なる充実を図る。

##### ② 適切なペット避難スペースの確保

全避難所において、適切なペット専用の避難スペースを確保し、ペットとともに避難生活を行えるよう、避難スペースの特定や動線確保など、実際の受け入れ環境の整備を進める。

#### (3) 備蓄物資の整備

食料・水・トイレ用品・ケージ等の基本物資は原則として飼い主が準備することを基本とする。ただし、災害時には持参が困難となる場合も想定されるため、区として一定のペット用物資を備蓄する。

#### (4) 民間団体等による避難支援の実施

区内の東京愛犬専門学校と協定を締結し、災害時に学生や専門家による支援体制を確保している。また、東京都獣医師会中野支部と連携し、負傷動物への診療を含む専門的支援を継続して行い、ペットの安全を確保する。

### 4 今後の予定

令和8年度	・ペット避難ガイドラインの作成・周知 ・避難所運営マニュアルの改訂 ・ペット用物資の拡充 ・東京愛犬専門学校との協定締結 ・ペットの防災教室の実施
令和9年度	・避難所運営アプリへの反映

### 5 その他

本報告をもって、令和6年第2回定例会で採択された陳情、「災害時における同伴避難所設置の検討を求める陳情」については、その願意が達成されたこととなる。